

第24回山梨医学フォーラム

日時:2024年2月28日(水)18:00~19:30

会場:山梨大学医学部 臨床大講堂

山梨県中央市下河東1110 TEL:055-273-1111(代表)

特 別 講 演 18:00~19:30

座長:山梨大学医学部解剖学講座システム生物学教室 教授
篠原 良章 先生

「神経幹細胞の活性化と認知機能回復」

演者:理化学研究所脳神経科学研究センター

かげやま りょういちろう
センター長 影山 龍一郎 先生



◆日本医師会生涯教育講座認定:29:認知能の障害(1.5単位)の対象となります

共催: 山梨大学医学部 山梨大学医師会 山梨大学医学会

後援: 山梨医学会 山梨県医師会生涯教育委員会

「神経幹細胞の活性化と認知機能回復」

理化学研究所脳神経科学研究センター
センター長 影山 龍一郎 先生

【講演抄録】

神経幹細胞は、胎生期に盛んに増殖し、多様なニューロンやグリア細胞を産生して脳を形成する。成体期になっても大脳の特長領域に神経幹細胞は残っており、時折分裂してニューロンやグリア細胞を産生する。この成体脳で新たに産生されるニューロンは、学習や記憶、さらには子育て等にきわめて重要な役割を担うが、加齢とともにニューロン産生は減少するため、記憶力や認知機能は低下する。しかし、老化した神経幹細胞のニューロン産生能を再び活性化できれば、認知症の治療や脳組織の再生につながるため大きな期待が寄せられている。そこで、胎生期と成体期との遺伝子発現パターンの違いを解析して成体脳神経幹細胞の機能低下メカニズムを明らかにするとともに、再活性化に向けた技術の確立を目指した。老化マウスのニューロン新生を活性化することによって記憶力や認知機能が回復することが分かったので、最近の成果について紹介する。

代表的文献

- 1) Shimojo et al. (2008) Neuron 58, 52-64.
- 2) Imayoshi et al. (2008) Nat Neurosci 11, 1153-1161.
- 3) Kageyama et al. (2008) Nat Neurosci 11, 1247-1251.
- 4) Imayoshi et al. (2013) Science 342, 1203-1208.
- 5) Sueda et al. (2019) Genes Dev 33, 511-523.
- 6) Kaise et al. (2022) Genes Dev 36, 23-37.

【ご略歴】

1982年	京都大学医学部卒業
1982-1986年	京都大学大学院医学研究科
1986-1989年	米国国立癌研究所 客員研究員
1989-1991年	京都大学医学部 助手
1991-1997年	同上 助教授
1997-2021年	京都大学ウイルス研究所（現 医生物学研究所）教授
2006-2010年	京都大学ウイルス研究所 所長
2013-2019年	京都大学物質-細胞統合システム拠点 副拠点長
2021-現在	理化学研究所脳神経科学研究センター センター長

【受賞歴】

1994年	日本生化学会奨励賞
2015年	文部科学大臣表彰 科学技術賞研究部門
2016年	時実利彦記念賞
2017年	内藤記念科学振興賞
2018年	紫綬褒章
2019年	武田医学賞
2021年	上原賞
2022年	朝日賞
2022年	東レ科学技術賞